

LORO

モノ・マガジン特別編集

都市生活とインテリアのトータル・コーディネート・マガジン

『ロロ』Vol.11

© WPP(禁・無断転載)

カバー写真 大段まちこ ODAN Machiko

カバースタイリング 田中美和子 TANAKA Miwako

カバーデザイン 3MIN. GRAPHIC ASSOCIATES



LORO 目次

6 イントロダクション

8 クリエイターの住まい
フランス／イギリス編

20 ミラノ・サローネ2011
デザイナー便り「にっぽんへのメッセージ!」

22 特別座談会・今年のサローネをふりかえる

デザイナー

デザインジャーナリスト

三井デザインテック

グエナエル・ニコラ × 川上典李子 × 見月伸一

24 川上典李子さんが注目したデザインの「今」

34 三井デザインテック・見月伸一によるトレンド分析

36 椅子・照明・棚・スツール…etc新作一挙公開



40 [特集]

窓は住まいの顔

窓から考えるインテリア

48 窓の種類と窓の取り付け位置

50 コーディネーター対談 窓まわりのインテリアテクニック

52 カタログ Part1・窓を飾るアイテム

58 ハンターダグラス 62 AGCカラーガラス

65 カタログPart2・窓辺を彩るグッズ



LORO

モノ・マガジン特別編集

都市生活とインテリアのトータル・コーディネート・マガジン

『ロロ』Vol.11



70 デザイナーズ Pick-up!
～イギリスのアトリエを訪ねて～
切り絵作家 ロブ・ライアンさん

76 デザインから感じるホテル

82 [特集]

Japan Made, Japan Brand

家具の世界のクールジャパン、飛騨高山と旭川で見つけました。

Part1 飛騨高山

86 柏木工 88 シラカワ 90 日進木工 92 飛騨産業

Part2 旭川

94 カンディハウス 96 北の住まい設計社 98 タイム アンド スタイル

Part3 ヨーロピアン・ブランドのジャパンメイド

100 アルフレックス ジャパン 102 キタニ



108 インテリア・コーディネーターのお仕事

113 [完全保存版] デザインディクショナリー ～日本編～

118 成形合板にみる「バタフライツール」の秘密

122 3つのキーワードで読み解く 倉俣史朗デザイン

130 リアル・コーディネーション
モデルルーム紹介


138 最新トレンド速報 デザインニュース

142 問い合わせリスト

143 読者プレゼント



鮮やかなテキスタイルが
部屋を楽しくする

 イギリス・テキスタイルデザイナー

Emma Jeffs

エマ・ジェフス



MILANO SALONE 2011

川上典李子さんが注目したデザインの「今」

Text=川上典李子 KAWAKAMI Noriko

歴史から今、
未来に生きるクオリティ

「家具のクオリティ」について改めて考える時間となったミラノサローネ2011。時を超えて生きる創造の力、誠実なものづくりの力についても考えずにはいられません。なかでも特に気になったエルメス ホーム・コレクションから、レポートを始めましょう。



右からジャン=ミッシェル・フランク・コレクションの2点。サイドテーブルはライ麦藁の寄木細工。ドゥニ・モンテルとエリック・バンケの椅子はジッパーでカバリング着脱可能。一番左はエンツォ・マリーリのデザインによるストレージコファ。

Photo: Studio des Fleurs ©Hermès, Paris2011

今年のミラノサローネで強く感じたのは、誠実なものづくりに宿る大きな力。丁寧な開発の経緯がものクオリティを実現するのだということ、改めて考えさせられた。丹念なものづくりを通してさらなる質を求め、工夫を凝らしていく……これはものづくりの基本だが、先を急ぐ現代社会のなかではつい忘れられがちだ。

巨匠デザイナーの力をいつも以上に感じたサローネでもあった。同時に、若手の実験的な提案にも勇気ももう。かつてない状況に置かれている現在の日本と世界を簡単に比較してはならないが、各国の企業やデザイナーたちも、世界的な不況が続くなかで奮闘を続けている。明快なヴィジョンのうえで、今本当に大切なものは何かと、熟考している。未来につながるデザインの力がそこにはある。

ヴィジョンという点で強く印象に残ったのは、エルメスホーム・コレクション。ジャン=ミッシェル・フランク（1895-1941）の家具を編集したコレクションをホーム・コレクション第一弾として昨年パリで発表していたエルメスが、初紹介となる第二弾をあわせ、コレクションの全貌をミラノサローネで披露したものだ。

アントニオ・チッテリオのデザインは「X」の脚が特色。エジプトやギリシャの遊牧民が用いていた折りたたみ式スツールにもつながるデザインで、レナ・デュマが'80年代にデザインした折りたたみ式家具、「ピッパ・コレクション」をも彷彿とさせる。そしてエンツォ・マリーリのデザインに美しさ。アルチザンスピリットが細部に至り、輝いている。

未来へと生きていくヴィジョンと試みの数々。その点を念頭に、他にも気になったプロジェクトを挙げていこう。



会場構成は建築家の坂 茂とジャン・ドゥ・ガステイエス。かつて競技場だった建物「ラ・ペロータ」に紙管の「家」がつけられた。複数の部屋を持つ坂氏らしい紙管の「家」は軽やかで、分解して各国への移動もできる。何より、家具同様にエレガント。会場そのものからまず、エルメスの精神が伝わってきた。

1
21世紀の
アルチザンスピリット

Hermès la maison

エルメス ホーム・コレクション
@La Perota

テキスタイルやテーブルウェア関連のコレクションでも知られるエルメスが満を持して本格的なホーム・コレクションを始動。たとえばテーブルの脚には皮革をはり、バッグと同じステッチを。クルミ材カナレットを磨いた優雅でなめらかなフレームなど、高度な職人技なくしては完成しえないものばかり。ディレクションはエルメスのアーティストック・ディレクターピエール=アレクシ・デュマ。9月より各国で展開。日本ではエルメス銀座店にて第一弾が登場。
©エルメスジャパン



カーテンも
春夏仕様に
チェンジ

カーテンにしたりネンのテーブルクロス(175×275cm)1万8900円@リベコホーム、脚立1万1550円、時計1万5000円@ともにザ・コンラランショップ、シャツ2940円@Oigou、サスペンダーパンツ3万4500円@Oigou/Oldman's tailor、スニーカー4200円@Oigou/BENSIMON、キャップ7140円@LDK/UNIVERSAL PRODUCTS



窓は住まいの顔 [特集] 窓から考えるインテリア

窓には、光と風をとりこむ大切な役割があります。
また、窓まわりの環境にあわせてどのような器具を選ぶかにもよって随分その効果に違いが表れます。
外の景色をみたいのか、それとも窓を白い壁のようにみせたいのか……。
窓まわりこそが、部屋の印象を決める大きなポイント。
ここでは、窓まわりの新作アイテムや部屋のコーディネート例、窓周りグッズなど多数紹介します。

Photo=大段まちこ ODAN Machiko Styling=田中美和子 TANAKA Miwako
Hair&Make-up=小田代裕 KODASHIRO Yutaka(mod'shair) Model=ケティン ナイル KOETTING Nile
撮影協力=SHILO STUDIO

ハンターダグラス「シルエット・シェード」J3
万8010円～日本ハンターダグラス、ブック
ケース6万3000円、ミルクを入れたジャグ7350
円、マグカップ945円以上すべてザ・コンラ
ランショップ、延長コード5万4600円@LDK/
BLESS、パンツ7140円@Bshop/SUNSPEL、
Tシャツ1995円、カットソー2835円、デッキ
シューズ8190円以上すべてOigou、本/私物



時間短縮!
寝ながら
お布団干し

リネンのデュベカバー(140×200cm)2万3730円、
リネンのピローケース各5880円、カーテンにした
リネンのテーブルクロス(175×275cm)1万8900円、
クッションカバー4935円、クッション2200円以上
すべてリベコホーム、猫のぬいぐるみ3万450円
◎クレヨンハウス、布団たたき1785円◎ザ・コンラ
ンショップ、Tシャツ1995円◎Olgou



キッチン窓は
クロスが
カーテンがわり

カーテンにしたリネンのキッチンクロス1365
円、食器を磨いているキッチンクロス1575円
◎ともにリベコホーム、マグカップ、ボウル各
945円、デザートプレート各1365円、ベジタブル
プレート各2100円、ミルクを入れたジャグ7350
円、スプーン(大)1785円、(小)各1155円以上
すべてザ・コンランショップ、テーブル8万9250円
◎everydaybycollex 代官山店、シャツ2940円、
パンツ3万3600円◎ともにOlgou

飛騨高山



Part.1 飛騨高山 Hidatakayama



Japan Made, Japan Brand

日本の森林面積は国土のおよそ67%といわれています。国別に見た世界の平均は30%以下。この数値は、先進国の中では突出した数字です。都市部に住んでいるとなかなか実感できないのですが、われわれが住んでいるのは本当に緑豊かな国なのです。森というのは不思議なもので、人の手が入ると著しく成長します。そうやって育ててきた森の木は、われわれ日本人に多くの恩恵を与えてくれました。木工で作られる家具とその製造技術などは、世界に誇るべき日本のクールなのです。前号に引き続き編集部はメイド・イン・ジャパンの家具にフォーカスします。緑豊かな岐阜県の飛騨高山と、大自然の森林に抱かれた北海道の旭川市で、素敵な家具との出会いがありました。

Photo/Tomoaki Tsuruda (WPP)
Interview/Shinichi Mitsuki (Mitsui Design Tec)
Text/Teruhiko Doi (WPP)

【特集】

家具の世界の
クールジャパン、
飛騨高山と旭川で
を見つけました。

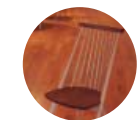
旭川



Part.2 旭川 Asahikawa



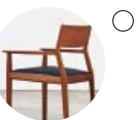
A. 柏木工



D. 飛騨産業



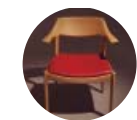
G. TIME & STYLE



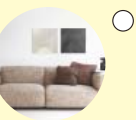
B. シラカワ



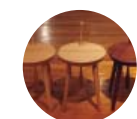
E. カンディハウス



H. アルフレックス



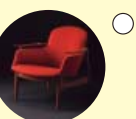
C. 日進木工



F. 北の住まい設計社



I. キタニ





Part.1 飛騨高山 Hidatakayama

家具の世界の
クールジャパン、
飛騨高山と旭川で
みつめました。

“飛騨の匠”の血脈と
飛騨木工連合会の矜持

日本に8つある海のない県、いわゆる内陸県の内のひとつである岐阜県は古くから木工が盛んな地域。県北部に広がる標高3000m級の飛騨山脈は豊かな森林を抱え、太平洋に向かって広大に流れる木曾川を始めとするいくつもの川は切り出した木材の運搬に利用され、そこで育った木工の職人たちは「飛騨の匠」と呼ばれて、古くは平城・平安の時代からその存在が知られていました。

「奈良に現存するほとんどの寺社仏閣は、飛騨の匠」が作ったといわれています。大体1300年くらい前の歴史があるんです。たとえば藤原京の隣には飛騨町という町名が現在も残っていて、はつきりとした記録が残っていないのですが、律令制度以前から宮殿造営の技能集団として活躍していたのは確かです。この地方に点在する建築物などに、そういう伝承がいくつも発見されているんです」と語るのは「飛騨木工連合会」で役員を務める尾花蕃さん。

見月 古くからある匠の技というの、どういうふうにかこの地域の家具作りに活かされているのでしょうか？

尾花 飛騨の家具というのは木部に関しては丈夫で長持ちして、愛着をもって使ってもらえることを念頭にしています。そのた

を七社がクリアして企業認定されました。認定されないと商標が使用できません。

見月 高いハードルですね。

尾花 海外からの贈物や、小売店のむやみな飛騨の家具フェアなどが横行して、地域としてブランドを守る必要性を感じたんです。で、その認定に厳しい6つの基準を設けました。6つの基準とは産地、木材、品質、保証、デザイン、エコロジーに関わるものです。

見月 家具に限らず地域ブランドが団体商標を取得するのはよく耳にしますが、やはり飛騨の場合は、匠、がキーワードになるわけですね？

尾花 はい。やはり1300年に及ぶ飛騨の匠の業績は、われわれの家具作りのスタンスに大きく影響していると思います。へたなもの作れないというか、志の高いところからのモノ作りです。ただ、飛騨の匠、に胡坐をかいては地域産業としての発展は望めませんし、多様化するニーズやグローバルな競争を勝ち抜いていくためには、内部からの産業振興が必要だったということですね。世界中のどこよりも厳しい目標値を飛騨の多くの企業が達成し、世界に飛騨の家具ブランドを広めていきたいと考えています。

めには伝統的な地域資源であります木材の選定と適材適所、乾燥技術、曲げ木技術、パーツ双方の接合技術(角ほぞなど)等の木材加工技術の複合的な活用により、とにかく品質の確かさが第一なのです。純国産であることも、いまの時代は大きな価値観があると思います。家具製造に関してはPL法を遵守することは当然で、いまは環境に配慮したJIS、JASを融合した新しい規格として「F4スター」という基準があり、すべて飛騨木工連合会に属するブランドの家具はこの星4つのF4基準の材料を使っているんです。

編集部 それはミシランの☆のようなものですか？

尾花 そうです。ほとんどの有害物質をかなり低レベルまで抑えた材料(合板、接着剤、塗装)で、それを使っていないと品質基準をクリアできないのです。われわれの家具を扱うような取引先では4つ星が取引条件になっているところが多いんです。

見月 木工連合会というのはこの地域でどういうスタンスなのでしょう？

尾花 「飛騨の家具」ブランドの管理に関して積極的な取り組みを行っているのが「飛騨木工連合会」なんです。平成20年に地域団体商標を登録取得しまして、現在認証基準要綱の厳しい基準



5

5.「飛騨スペック」とも言うべき木工連合会認定7社のうちのひとつ、柏木工の工場内で見つ、まるでダンスをしているかのような椅子の製造ライン。種類の違う椅子の塗装を効率的に行う。職人性と機械化の絶妙なバランスが飛騨の家具製造。

↓飛騨木工連合会の製品につけられる認証。



飛騨の家具



日進木工(株) 相談役 文化企画担当 尾花蕃さん

日進木工相談役と同時に、飛騨木工連合会の役員も務められる尾花蕃(しげる)さん。豊富な知識と飛騨の家具へのたっぴりな愛情で、木工連合会を代表した的確なコメントをたくさんいただきました。



三井デザインテック クリエイティブ・ディレクター 見月伸一さん

三井デザインテックにおいて、インテリアに関わるデザイン・ディレクション、コンセプトワークを中心に活躍。豊富なリサーチとデータ、洞察力に基づくデザイン・セミナーは高い評価を得ている。



3

1.ローテーブルに素材と色の異なる模様をインレイ。つなぎ目が判らないほど高度な技術はさすが。
2.隠れてしまうのが惜しいほど精緻に加工された木部の接合部分。接着面が広く強度がグンと増す。これこそがメイド・イン・ジャパンの真骨頂である。
3.トータルとしてのデザイン提案も時代と共にフレキシブルに変化。住まいの形態やスタイル、家族構成など一番影響を受けるのがダイニングセットかもしれない。



2



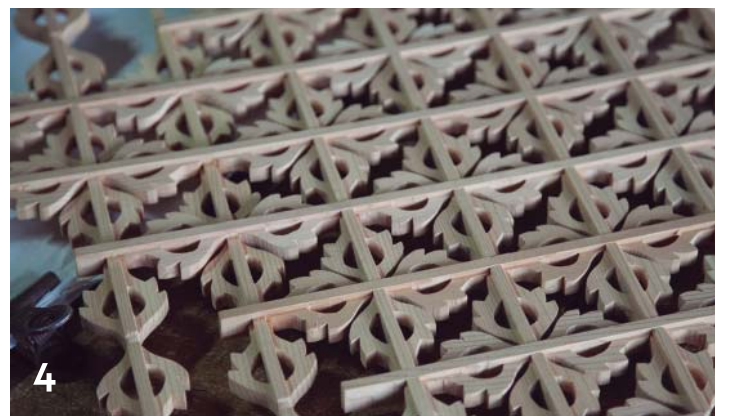
1

害物質をかなり低レベルまで抑えた材料(合板、接着剤、塗装)で、それを使っていないと品質基準をクリアできないのです。われわれの家具を扱うような取引先では4つ星が取引条件になっているところが多いんです。

見月 木工連合会というのはこの地域でどういうスタンスなのでしょう？

尾花 「飛騨の家具」ブランドの管理に関して積極的な取り組みを行っているのが「飛騨木工連合会」なんです。平成20年に地域団体商標を登録取得しまして、現在認証基準要綱の厳しい基準

飛騨の家具とは？ (飛騨の家具認証基準要綱から抜粋)	
1 産地基準	飛騨木工連合会の組合員企業が製造した家具であり、製品の木部加工が飛騨地域内ですべて行われていること。
2 木材基準	飛騨の匠の時代から受け継がれている「木材に対する優れた目利きの技術」により選ばれた良質な木材を使用していること。
3 品質基準	PL法、消費生活用製品安全法、品質表示法など品質にかかわる法律等を遵守するとともに、飛騨木工連合会が認定した表示文、警告文、取扱説明書等が添付されていること。
4 保証基準	明確な保証基準書が添付されているとともに、木部の保証期間が10年間保証となること。
5 デザイン基準	飛騨デザイン憲章を遵守している組合員企業が製造していること。
6 エコロジー基準	地球環境、地域環境、健康に配慮した素材や原料等の使用及び製造方法に取り組んでいること。たとえば合板、塗料、接着剤はホルムアルデヒドを含む6有害物質を除去した「F☆☆☆☆」を使用すること。



4

4.大きな建物の建築から細部の装飾まで、1300年以上も続いてきた「飛騨の匠」の技は、この地の職人たちの矜持を育ててきたに違いない。こうした技術が活かされるこれからの家具に期待したい。

05 長大作

ちょう だいさく

1921～
既製家具が少ない時代に、建築家の板倉準三の事務所で作る。一度世に送り出したデザインも、さらに改良を施して完成度を高める真摯な態度で臨んだ。初めて商品化された「小椅子」のシリーズは、当時最新技術であったラケット構造を取り入れた「パーシモンチェア」に発展。代表作とされる、八代目松本幸四郎邸のためにデザインした「低座イス」も、数々の研究の末に現在の形状に辿りついた。50歳で独立した後、20年ほど家具を手がけなかったが、70歳で家具作りに復帰。現在も現役のデザイナーとして活躍している。



メトロクス
「マッシュルームテーブル」
12万6000円
©metrocs

天童木工
「低座イス」
5万5965円～
©天童木工



イデー
「籐座椅子」
3万9900円
©IDÉE SHOP Jiyugaoka

メトロクス
「パーシモンチェア」
4万2600円～
©metrocs

08 乾三郎

いぬい さぶろう

1911～1991
家具製造業を営む家系に生まれる。戦時中、軍の勤務で得た電波の技術を成形合板の加工に応用。工芸指導所において、デザイン面を主導する剣持勇の助手として、家具作りを技術面から支えた。こうして生まれたもののひとつが柳宗理の「バタフライスツール」。その後は天童木工の社員として、「プライチェア」や「座卓」を自らデザインしている。



天童木工
「プライチェア」
8万9250円
©天童木工

07 水之江忠臣

みずのえ ただおみ

1921～1977
建築家・前川國男の事務所内で装・家具を担当。前川國男、坂倉準三、吉村順三の三つの建築事務所が共同で設計した国際文化会館(1955年竣工)の内装に、長大作、松村勝男と共に関わる。代表作の「チェア」は、神奈川県立図書館のためにデザインされたのがオリジナル。何度も細部に手を入れてデザインを熟成させ、現在の形に至っている。イームズやハンス・J・ウェグナーとの親交も深く、ハーマンミラー社の相談役を務めた他、ウェグナー展を企画し彼を広く日本に知らしめた。



天童木工
「チェア」
2万9400円
©天童木工

06 松村勝男

まつむら かつお

1923～1991
少年時代に見たシャルロット・ベリヤンの展覧会に触発され、家具デザインの道へ。建築家・吉村順三の事務所に席を置き、内装・家具を手がけ頭角を現す。この時手がけた新宿風月堂は、前衛文化の発信地となった。自身の事務所を構えてからは、工作過程の簡略化により、美しい家具が手に届きやすい価格で行き渡ることに専心。前後の脚がひとつのパーツで成り立つ「チェア」は、大ヒットとなった。



天童木工
「チェア」
2万9085円～
©天童木工

11 藤森健次

ふじもり けんじ

1919～1993
50年代にフィンランドに留学。卒業後イルマリ・タピオヴァラの下で働いた後に帰国。それまでの日本の家具とは違う、無駄を排して素材の良さを生かしたシンプルな家具をデザインした。代表作である「座イス」は、一枚の合板を曲げただけのものだが、スタッキングが可能で上に、座布団がずれない様に工夫された、日本の風土に適した名作である。また翻訳を通して、スカンジナビアデザインを日本に紹介した。



天童木工
「座イス」
1万3650円～
©天童木工

10 菅沢光政

すがさわ みつまさ

1940～
天童木工に入社後、1958年より同社に勤める乾三郎の下で研鑽。技術面で同社を支えた。また自ら家具デザインを行なっている。代表作は、背もたれの高い椅子「ヘロン」のシリーズ。なかでも「ロッキングチェア」は、アメリカで特に人気が高かったモデル。著書である「天童木工」は、日本のモダンファニチャーの黎明期を知るのに相応しい一冊。



天童木工
「ロッキングチェア」
7万7175円～
©天童木工

09 ヤマナカグループ

ヤマナカグループ

当時学生だった山中康廣(1938～)、山中阿美子(1939～)、曾原厚之助(1939～)の3人により、1961年の天童木工のデザインコンクールに応募するために結成。応募作である「マッシュルームスツール」は入選したものの、当時の技術では製造が困難なこともあり、2003年になってようやく生産が行なわれた。現在3人は建築を中心に独自に活動を行っているが、2010年には唯一の作品がバリ裝飾美術館に永久保存される荣誉に浴している。



天童木工
「マッシュルームスツール」
4万6200円～
©天童木工

01 豊口克平

とよぐち かつへい

1905～1991
戦前はブルーノ・タウトの指導を仰ぎ、バウハウス風の家具を製作するも、やがて日本ならではのオリジナルデザインへ方向転換。1942年のモントリオール万博で日本館のインテリアを手がけた。代表作の「スポークチェア」は、英国のウインザーチェアの影響を受けつつも、日本の生活に合うよう座面を低くしている。プロダクトも数多く手がけ、現NTTのために手がけた公衆電話は、誰もが知るデザイン。

天童木工
「スポークチェア」
10万5525円～
©天童木工



02 渡辺力

わたなべ りき

1911～
日本の家具デザインに方向性を与えたデザイナー。代表作である「トリスツール」は、1956年のミラノトリエンナーレに出展し金賞を受賞したものの、以来、夏の家具に用いられていた籐が、シーズンに関係なく使用されるようになった。また「リキウインザー」のように、日本の風土文化に合わせ、海外の家具をリデザインしたケースも多い。京王プラザのバーや、飛行機YS-11の内装を手がけるなどインテリアの仕事も多数。「ハーマンミラー物語」を執筆するなど、次世代の教育にも熱心で、日本インダストリアル・デザイナー協会の設立にも関わった。



YMK
「トリスツール」
7万390円
©metrocs

メトロクス
「CFリキウインザー」
2940円
©metrocs

カンディハウス
「リキウインザーアームチェア」
8万850円
©カンディハウス



カンディハウス「リキウインザー」
14万2800円～
(クッション、スツール、テーブル別売)
©カンディハウス
デザイン:渡辺力

03 剣持勇

けんもち いさむ

1912～1971
民芸でも西洋のコピーでもない日本のオリジナルである、ジャパニーズモダンを牽引した中心人物のひとり。公的機関である工芸指導所の職員として大きな影響力を發揮。独立後は、名だたる建築家との協業により、戦後日本を象徴する建物に多くの家具をデザイン。ホテルニュージャパンのための「ラウンジチェア」は、日本の家具で最初にMoMAの永久コレクションとなった。「柏戸イス」は、丹下健三の熱海ガーデンホテルのロビーに、「チェア」は戸塚カントリークラブのために作られたもの。「ヤクルト」の容器は、最も知られたプロダクト。



YMK
「ラウンジチェア(C-3150)」
15万9600円
©にっぽんフォルム



天童木工PLY
「ロビン」
14万9100円
©天童木工PLY

天童木工
「チェア」
5万1450円
©天童木工



天童木工
「柏戸イス」
59万3250円
©天童木工

04 柳宗理

やなぎ そうり

1915～
戦後日本を代表するデザイナーのひとり。日本の「民芸運動の父」と呼ばれる、柳宗悦の長男として生まれる。戦前にシャルロット・ベリヤンの指導を受けモダンデザインの道へ。この時習得したのが、実際に模型を作ってデザインを行なう手法。そのため作品はどれもオーガニックな曲線をもつ。またイームズの影響を受け、早くから合板、プラスチックといった、新素材を用いた家具作りに取り組んだ。国際的にも人気は高く、代表作である「バタフライスツール」(P118に特集あり)や「エレファントスツール」は、海外でも生産が行なわれている。食器ややかなど日常的に使うプロダクトから、高速道路の防音壁など、巨大な建造物も手がけている。



天童木工PLY
「スタッキングチェア」
5万1450円
©天童木工PLY



天童木工
「バタフライスツール」
4万0950円
©天童木工



飛騨産業
「YANAGI CHAIR」
18万9000円
©飛騨産業

ヴァイラ・デザイン・ミュージアム
「エレファントスツール」
1万500円
©thstyle.com 青山本店



天童木工PLY
「シェルチェア」
7万1190円
©天童木工PLY



LORO

WORLD MOOK
ワールド・ムック869

Publisher

発行人 / 今井今朝春
IMAI Kesaharu

Editor in Chief

編集人 / 土居輝彦
DOI Teruhiko

Editors

松崎薫子
MATSUZAKI Kaoruko

徳本真弓

TOKUMOTO Mayumi

Advertising Director

坪井一雄
TSUBOI Kazuo

松本博幸

MATSUMOTO Hiroyuki

Production Director

小川俊介
OGAWA Shunsuke

Circulation Manager

笹川裕史
SASAGAWA Hiroshi

Design

スリーミン・グラフィック・アソシエイツ
3MIN. GRAPHIC ASSOCIATES

Print

大日本印刷株式会社
DAI NIPPON PRINTING Co., Ltd.

Type Setting

有限会社ベース
BASE

Correspondents, Wasington, D.C.

Breau

(Pictorial Press International)

Norman T. Hatch

Mikako Burks

Collaboration with

三井デザインテック

MITSUMI Designtec

見月伸一

MITSUMI Shinichi

黄明奕

KOH Mini

木野田千晴

KINODA Chiharu

清原威巳

KIYOHARA Takemi

ぜいたくではないけれど、心の豊かな「普通」の生活を送りたいなあと思う。大好きな街に住み、愛着あるものに囲まれて暮らす。太陽とともに生活できれば最高だけど、休みはいつもふとんの中でだらだらしてしまふ。気持ちのよいリネンのファブリックだからしょうがないと自分に言い聞かせつつ、なんでもない普通のトーストを自分好みにカリッと焼いてごはん。午後からは近くを散歩して季節を感じ、夜には楽しいお酒でまったりゆるるんで。家は気張ることなく落ち着けるのがいちばん。それには、カーテンのような大物はもちろんのこと、ダストボックスひとつとっても「とりあえずこれでいいか」という買い物をやめて、欲しいものが見つかるまで探す。そのひとつひとつの作業が家づくりの醍醐味だから。(編集M)

Photo=徳本真弓 TOKUMOTO Mayumi (WPP)

発行所

株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

(編集部) TEL. 03-5385-5666 FAX. 03-5385-5617

(販売部) TEL. 03-5385-5701 FAX. 03-5385.5703

(広告営業部) TEL. 03-5385-1350 FAX. 03-5385.1348

本誌の無断転載を禁じます。

© WORLD PHOTO PRESS 2011